

政治・経済定点観測レポート

## ウズベキスタン NOW

【第4号:2009年1-2月期】

\* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

### 経済発展実績

2008年ウズベキスタンの GDP 成長率は9%で、政府予測(8%)を上回った。2007年の GDP 成長率はこれより少し高く、9.5%であった。工業生産は12.7%(2007年には12.1%)、農業生産は4.5%(6.1%)伸びた。

工業セクターで最も高い成長率を示したのは燃料部門23.9%、機械製作・金属加工業23.5%、木材加工・パルプ産業19.8%、食品工業28.2%、建材生産9.8%である。消費財生産の伸びは17.7%、内訳では食品生産が19.3%、食品以外の生産が16.6%成長した。

昨年サービス売上高は21.3%成長し、GDPに占めるその比率は45.3%になった。金融サービス売上高は32.2%伸びた。

昨年中に消化された投資の総額は2007年比で28.3%増え、8兆4,800億スムとなった。

輸出は28.7%伸び、GDPに占める外国貿易高の比率は69.2%だった。

政府の予想では、今年の GDP 成長率は8%、インフレ率は7.9%未満となっている。

### 二国間関係

#### ウズベキスタン大統領が「二重課税回避に関するウズベキスタンとサウジアラビアとの条約」を承認

この「二重課税回避と所得税および資本税の脱税防止に関する条約」は2008年11月18日に調印された。

#### トルコ・ウズベク通商会議の設立

トルコ対外経済関係会議とウズベキスタン商工会議所は、両国間の貿易を促進し、企業および経済組織間の産業・技術協力を発展させるための通商会議を設

立した。

この通商会議はそれぞれの国に一つずつ置かれる支部の形で活動し、各支部は独自の会員と経済団体を持つことになる。トルコ対外経済会議がトルコ支部のための事務局、ウズベキスタン商工会議所がウズベク支部のための事務局をつくる。

両国支部は少なくとも年に1回、トルコとウズベキスタンで交互に会合を開き、貿易、投資、産業・技術協力のような分野での成果と技術的可能性の分析を行う。

トルコはウズベキスタンの貿易相手国の貿易額上位10カ国に入っている。両国の貿易額は2007年には7億5,430万ドル、2008年実績では8億ドルを上回った。

### **順調に伸びる中国・ウズベキスタン貿易**

近年、両国間の協力は貿易・経済面、エネルギー部門で安定的に発展している。また、インフラ発展支援、土地改良、給水システム改善での協力も順調に進展している。予備的な推計によれば、2008年の中国・ウズベキスタン間の貿易額は約15億ドルであった。

### **投資政策**

#### **2009年にウズベキスタンは水利施設近代化・改修の分野で11案件の実施に着手**

これらの案件の総費用は約1億8,700万ドルで、これには7,096万ドルの外国クレジットが含まれている。案件にはアジア開発銀行、国際復興開発銀行、国際開発協会、OPEC基金が投資し、上海協力機構ならびに中国政府が優遇クレジットを供与している。2009年にはまた、農業水利省が水利施設近代化・改修の分野で総額9億2,500万ドルの17投資案件を研究することになっている。これらの案件の潜在的投資家として予定されているのはアジア開発銀行、イスラム開発銀行、OPEC基金、アブダビ開発基金、国際開発協会、世界銀行、フランス政府である。

#### **2008年のウズベキスタンの外国投資誘致額は28億ドル**

昨年、ウズベキスタン経済に導入された外国投資額は2007年の数字を60%上回った。その際、直接外国投資は約20億ドルだった。ウズベキスタンの対外債務のGDP比は約12%である。

## 2009 年度の完成品ローカル化プログラムを採択

この文書が採択された目的は、競争力のある輸出指向製品および輸入代替製品増産の刺激、共和国内の中小企業と大企業のコラボレーションを含めた部門内および部門間の産業コラボレーションの強化である。なお、このプログラムの枠内で国家機関「ウズスタンダルト」は、国際標準に基づいて品質マネジメントシステムを作成し、ローカル化プログラムを実施している企業にこれを導入するためのプログラムを承認しなければならない。また、所定の手続きにより、標準化と品質マネジメントシステム導入の問題に関して各企業の従業員研修を組織しなければならない。

## ウズベキスタン国立対外経済活動銀行（NBU）が資本金 320 億スムの 100%子会社の投資会社 NBU Invest Group を設立

新会社の主目的は、外国投資の誘致、投資基金の組織、コンサルタント業務、引受業務、預託業務、資産管理業務である。

NBU Invest Group の管理にゆだねられるのは、同銀行の管理下にある破産企業をベースにして設立された企業。その目的はこれらの企業のさらなる再編、設計生産能力への引き上げ、戦略的投資家への売却である。

新聞に発表された新株式発行届出目論見書によると、公開株式会社として設立された新会社の定款記載資本金は、額面各 12 万 5,000 スムの 25 万 6,354 株の普通記名株式（非現物株式）に分割されている。目下、NBU Invest group の資本金に大手の外国パートナーを誘致する問題が研究されている。

## 2009 年にウズベキスタンは総費用約 3 億 8,000 万ドルのインフラ施設建設を計画

大統領決定により、32 案件を含むプログラムの数字が承認された。これらの案件は「ウズベクネフチェガス」、「ウズベクテレコム」、「ウズベキストン・ハヴォ・イウラリ」、「ウズベキストン・テミル・イウラリ」、「ウズベクエネルギー」、その他のような会社の資金によって実施される。案件の資金調達にはウズベキスタン復興開発基金が参加する。外国銀行のクレジット導入も予定されている。

## 金融市場

### 2009 年末までにウズベキスタんに農村部建設融資専門商業銀行を設立

この措置は 1 月 26 日に承認された国家プログラム「農村開発・福祉年」で予定されている。新銀行は農村部の住宅建設、生産・社会インフラ建設に関連す

る案件への融資業務、ならびに農村企業家への広範囲な銀行サービス提供を専門にする。初期段階ではこの銀行の経営支配権を確保するための株式数は国家が保有する。銀行の優先課題の一つとして決められているのは、農村住民への規格設計住宅建設用優遇ローンである。これは期間 10 年以上で、利率は中央銀行公定歩合（14%）の 50%になる。「農村開発・福祉年」プログラムに基づき、政府は今年の上半期に、2009 - 2015 年の期間の農村部個人住宅建設発展プログラムを策定する計画である。

## エネルギー・セクター

### ガスパイプライン「ウズベキスタン＝中国」線のウズベク側工事が活発化

この幹線ガスパイプライン（総費用約 30 億ドル）のウズベク側工事は 2009 年に活況局面に入る。幹線の総延長は 490km。「ウズベクネフチェガス」社はこの案件の枠内で 2009 年中に中国国家石油天然ガス集団公司（CNPC）の直接投資 2 億 4,400 万ドルを消化する計画である。2008 年 4 月にウズベクネフチェガスと CNPC は、ガスパイプライン「ウズベキスタン＝中国」線の設計、建設、運用に従事する合弁会社「Asia Trans Gas」を互角の原則に立って設立した。このガスパイプラインはウズベキスタンの 3 つの州 ブハラ州、カシカダリア州、ナヴォイ州内を通過し、次いでカザフスタンのガス輸送システムへとつながる。

### ウスチュルト・ガス化学生産施設プロジェクトの準備開始

予測では、スルギル鉱床におけるウスチュルト・ガス化学生産施設の建設は 2010 年初めに始まる可能性がある。シンガポールの CMAI 社はすでに案件の実現可能性調査（FS）の作成に着手した。この案件の総費用は予備的に 18 億 5,000 万ドルと見積もられている。施設の年間加工能力は天然ガス 40 億立方 m。計画では年間 36 万 2,000 トンのポリエチレン、8 万 3,000 トンのポリプロピレン、37 億立方 m の商品用天然ガスを生産する。

案件の発注者は合弁企業「UzKorGasChemical」で、この会社は 2008 年 2 月に「ウズベクネフチェガス」と韓国コンソーシアムが参加して設立された。コンソーシアムのメンバーは Kogas、Lotte Daesan Petrochemical Corp.、LG International Corp.、SK Gas、STX Energy である。

### 2008 年のウズベキスタンの天然ガス探掘量は 3.7%の成長

自動車用ガソリンの生産は 4.7%の成長、同じく航空燃料 21.4%、石油ピチウム 9.3%、液化ガス 20%、天然ガス付随硫黄 27.5%の成長であった。

国有持ち株会社「ウズベクネフチェガス」のサイトで報じられているところによると、収集・加工施設の建設によって随伴ガス活用対策の実施が継続される。伝統的な航空燃料銘柄 TC 1 の生産と並行して 2009 年からは Jet A 1 銘柄の生産が予定されている。

### **2008 年にはウズベキスタンで 15 の石油・ガス鉱床が発見された**

2008 年は「ウズベクネフチェガス」傘下の企業により 18 の新エリアで試掘が開始された。25 の有望構造で試掘のための準備作業が完了し、121 本の試掘井が完成した。投資ブロックで活動している外国企業は 14 の有望構造の試掘準備作業を完了した。14 の新エリアで試掘が開始され、10 本の試掘井が完成した。

### **「ウズベクネフチェガス」と「ペトロナス」が総額 11 億 6,070 万ドルの諸案件に着手へ**

ウズベクネフチェガスと「ペトロナス・チャリガリ・オーヴァーシーズ Cdn.Bhd.」(マレーシア)は 2009 年にスルハンダリア地域のバイスン投資ブロックとウスチュルト地域のウルガ鉱床、クアヌイシ鉱床、アクチャラク・グループ鉱床での案件実施に着手する。

ペトロナスは、ほかにウズベクネフチェガス、「ルクオイル・オーヴァーシーズ」(ロシア)、KNOC(韓国)、CNPC(中国)も参加する国際コンソーシアムで 20% の持分を保有している。このコンソーシアムは 2006 年 8 月にウズベキスタン政府とアラル海ウズベク部分開発に関する期間 35 年の生産物分与協定に調印した。

2008 年 5 月にウズベクネフチェガスとペトロナスは、費用 15 億ドルの合成燃料(GTL 燃料)生産工場を 2008 - 2012 年に建設する協定に調印した。

## **その他**

### **「ウズベクテレコム」と「アフガンテレコム」が協力協定に調印**

両社は新しく建設される両国を結ぶ光ファイバー幹線による国際サービス提供で協力する。光ファイバー幹線が開通すれば、アフガニスタンとウズベキスタン間に直通の通信を組織できるようになり、国際電話、インターネットへのアクセス、ウズベキスタン経由の CIS 諸国、その他の外国への電話などのサービスが提供できるようになる。アフガンテレコムはアフガニスタンの基本的な電話オペレーター会社であり、アフガニスタン通信省の監督下にある。

### **ウズベキスタンの大手化学工場で総額約 500 万ドルの「クリーン開発メカニ**

## **ズム」プロジェクトの実施を計画**

三菱商事は 2009 年にウズベクの最大級化学工場 「ナヴォイアゾット」、「マクサム・チルチク」、「フェルガナアゾット」で「クリーン開発メカニズム」(CDM) プロジェクトを実施する。これらの案件に関するすべての文書は国際監査法人の検証を済ませ、国連 CDM 理事会での登録を待っている。三菱商事は今年の 3 月からプロジェクトの実施に着手できる。同社はウズベクの化学会社に温室ガス(窒素酸化物) 利用に関する技術とノウハウを提供する。これにより各企業のエネルギー効率を大幅に向上できる。三菱商事が参加した化学工場の近代化は、現実に実施段階にあるウズベキスタン最初の CDM プロジェクトである。

## **ウズベキスタンで法案「技術的規制分野の適合性評価について」を策定中**

この法案の目的は、国内法規を国際基準と調和させること。貿易の技術的障壁に関する世界貿易機関(WTO/TBT)協定の要求と国際的諸文書に基づく法律の採択は、適合性評価の唯一の形態としての認証から、適合宣言による適合性承認を含むさまざまな形態まで、適合性評価のより柔軟な形態への移行を保障するだろう。